

存在が問われる地方議員!!

それは選んだ側の責任も問われている。

よそもの

しんざんもの

他所者は得体が知れないから怖い。新参者は何を言い、何をするか予測が付かないから恐ろしい。だから古い者が徒党を組んで攻撃する。いつの時代も、何処でもあることだが、それが政治の場で繰り広げられているなどあってはならないことだ。市民のためになることなら、党派は関係なく力を合わせて考え努力をしてもいいだろうに、これでは誰が議員になっても、古い体制を変えることなど不可能であろう。本当に名古屋市を良くしようと考えて日々活動しているのか疑問だ。やはり今、私たち市民が立ち上がるしかないのだろうか。言うまでもなく選挙には参加をすること。そして支持した議員をしっかりと見守り、積極的に政治に関わっていかない限り地方議員の不祥事も無くならないし、市政も良くはならないのだろう。

名古屋市在住 S氏

政治は数、数は力?

本年6月20日に報道されたとおり、減税日本・日本維新の会・結いの党との三党合流は残念ながら断念されました。合流を目指すと言ったかと思えば、しばらくすると自から断念すると言う……。減税日本の真意が理解できず、不安を持ち、信じられないとまでお思いの方もいらっしゃるでしょう。

政治においては、やはり数の力が重要です。自分たちの訴える政策を実現するためには、同じ方向を向いている仲間と結集して数を増やし、違う方向を向いている勢力と闘っていく必要があります。

しかしながら、『減税日本』の理念を裏切ることになるのではないかと、「合流することで河村市長の発想力・行動力に制限を受けるのではないかと」、「あくまで『減税日本』として次の選挙で市民のみなさんの審判を仰ぐべきではないか」等々、リコール活動から減税日本を応援してくださったみなさんの強いお言葉を真摯に受け止め、市民のみなさんのお気持ちを考え、河村市長と所属議員等とで話し合った結果、合流を断念することとしました。

「党の力のひとつが所属議員の数であること」。民主主義＝多数決ではありませんが、政治においては、やはり、数の論理がモノを言うのです。

名古屋市会議員は全部で75名。リコール活動で既成政党を

否定したからなのか、議員報酬を半減したからなのか、本来組むはずのない自民・公明・民主+αが手を組むと40名以上。一方、減税日本ナゴヤは平成26年8月現在15名（当初は28名）。不祥事による会派除名や、一方的な理由での離脱などが相次いだためです。「減税日本ナゴヤにいて、やりたいことができなくなっているのでは…」、そんな諦めを抱き、会派を出ていった人もいました。

言うまでもなく、数だけが力ではありません。議員としての経験と努力が足りなかったことも事実です。

今回の合流断念を受け、最後まで「減税日本」として、新たな決意で自分たちの信じる政策の実現を目指していきたいと思えます。

広報なごや・市会だより「議会の活動」第140号（平成26年5月）において、中村孝道議員・黒川慶一議員が「減税日本ナゴヤ所属」と掲載されたことについて。この号は2月19日～3月20日に開催された2月定例会について書かれています。中村・黒川両議員の離脱届は3月28日に受理されておりますが、2月定例会会期中は減税日本ナゴヤ所属として扱われていたため、このような記載となりました。市民のみなさんには大変なご心配とご迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

H25.夏 中村議員、黒川議員の政務調査費不正疑惑が浮上
H26.1.30 両議員を減税日本ナゴヤの会派除名処分
H26.3.28 議会において、両議員の会派離脱届が受理される